

谷津に入ったオオバナミズキンバイ

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 小倉 久子・田島友昭・間野吉幸
岡発戸都部谷津ミュージアムの会 平原 寿一郎

はじめに

千葉県北東部に位置する手賀沼では、オオバナミズキンバイ (*Ludwigia grandiflora* susp. *Hexapetala*: 亜種ウスゲオオバナミズキンバイ) が2017年に確認され、以後、湖岸を中心に、ナガエツルノゲイトウと競合しながら急速に繁茂を拡大しており、2020年度からは千葉県による大型機械を用いた大規模駆除も行われている。



手賀沼から水田への侵入

2024年6月には、手賀沼の水を用水として用いている我孫子市内の完全無農薬の有機農法で耕作している水田においてオオバナミズキンバイの侵入が確認された。この水田は手賀沼の水を用水して使用している。発見時にすでに陸生化したものが繁茂していたことなどから、これ以前に侵入していた可能性もある。



速やかに駆除対応を開始

対処方法として農薬を使わない方法を用いることを決定し、以下の方法で駆除を行っている。すなわち、① 水田内のオオバナミズキンバイが侵入したエリアは、波板を地中まで打ち込んで隔離し、繁茂拡大を防ぐ。② 隔離内部のオオバナミズキンバイは、手作業で根まで丁寧に引き抜く。③ 人力によってほぼ完全に引き抜いた後は、遮光シート（遮光率100%のもの）で覆い、数年間かけて根絶に近づける。④ 畦畔に繁茂する陸生化したオオバナミズキンバイは、地上部をバーナー式除草機で焼き切る。地下部までは焼けないので再発芽は防げないが、再発芽のたびに直ちに焼却することにより、分布域を広げない、もしくは、少しずつ勢力を弱めていくことを期待する。



今後に向けて

オオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウを水田に入れないためには、各水田の農業用水の吐水口にネットをかぶせて、茎や葉の断片を水田に入れないことが肝要である。ナガエツルノゲイトウは栄養繁殖のみと考えられるのでこの方法での防除が効果的であるが、オオバナミズキンバイは種子繁殖も行われるとされており、今後は種子繁殖による分布拡大の可能性についても検討が必要である。



(2025年2月23日 千葉県生物学会にて発表)